

ウソにウソを重ねるワシントン——ロシアが“ウクライナを侵略した”？

By Dr. Paul Craig Roberts

Global Research, August 29, 2014

<http://www.paulcraigroberts.org/>



最新のワシントンのウソ——この場合 NATO からのもの——は、ロシアが 1,000 人の部隊と自走砲によってウクライナを侵略したというものである。

どうしてこれがウソとわかるか？ それは我々がロシアについて、NATO からも、サマンサ・パワー米国連大使からも、国務長官補佐ビクトリア・ニューランドからも、オバマと彼の病的虚言集団からも、英、独、仏政府や BBC など西側メディア全体からも、ウソしか聞いたことがないからか？

これはもちろん、この最新の西側の宣伝がウソだとわかる立派な理由である。病的虚言癖をもつ者が突然、本当のことを言い出したりしない。

しかし、ロシアが 1,000 人の部隊でウクライナを侵略してはいないことがわかる、もっと立

派な理由がある。

一つの理由は、プーチンが今、挑発しない姿勢に基づく外交に全力投入していることである。彼は自分の外交の賭けを、こんなわずかの兵を送り込むことによって危険にさらし、結果に決定的な影響を与えるようなことはしないだろう。

もう一つの理由は、もしプーチンが、東部・南部ウクライナのロシア人居住者を保護するために、ロシア軍を送るよりほかにないと決断したのであれば、彼はグルジアでやったように、その仕事を速やかにやってのけるに十分な軍隊を送るだろう。あの場合には、アメリカとイスラエルによって訓練されたグルジア軍が南オセチアを侵略し、ロシアの反応によって数時間で撃破された。もし空軍を伴う 10,000 人部隊がウクライナに侵入したという話なら、もっと信じられる主張ではあろう。

更にもう一つの理由は、ロシア軍は、キエフのワシントン傀儡政府によるロシア民族の爆撃と砲撃をやめさせるために、兵を送る必要はないのである。ロシア空軍が、簡単に速やかにウクライナ空軍と砲兵隊を撃滅し、それによって分離派地域へのウクライナの攻撃をやめさせるだろう。

ロシアの装甲輸送団がウクライナに入り、ウクライナ軍によって撃破されたという作り話が、英ガーディアン紙と BBC によって広まったのは、ほんの 2 週間前のことだった。そしてそれより更に 2 週間前には、米務省が発表したという偽物の衛星写真を見せられた。これはキエフの腐敗した米大使が、ロシア軍がウクライナに向かって砲撃している写真だとして、社会メディアを使って世界にばら撒いたものである。今から 1~2 週したら、我々はもう一つのウソをつかれるだろう。更に 1~2 週すると、また一つ、と続くことだろう。

次々にウソを積み重ねることは、大多数の人にとって、ロシア人はろくなことをしないという見方を作り出す効果をもつだろう。ひとたびこの見方が固定されると、西側政府はロシアに対してもっと重大な行動を取ることができる。1,000 人のロシア兵がウクライナに入ったという話は、NATO の Niko Tak 准将によって“ウクライナにおけるロシア軍の干渉の重大なエスカレーション”と宣言された。ウソつきのチャンピオン Samantha Power は、米安全保障会議に対し、“ロシアはウソをつくのをやめなければならない”と言った。国連イギリス大使は、ロシアは“主権国家ウクライナの領土の明らかな侵犯”を行っていると言った。英首相キャメロンは、ロシアに“更なる結果”を警告した。ドイツのメルケル首相は、更に多くの制裁があるだろうと宣言した。あるドイツ安全保障会議アドバイザーは、“ロシアとの戦争はオプションだ”と宣言した。ポーランド外相シコルスキーは、これは国際的訴訟を要するロシアの侵略行動だと言った。フランスのオランド大統領は、ロシアの振舞いは“我

慢できない”と宣言した。ウクライナの安全保障会議は、強制的徴兵を課した。

ヨーロッパの首脳たちの、ロシアとの戦争を求める自殺的な動きは、1,000人のロシア兵がウクライナへ越境したという透明なウソに、全面的に基づいている。

もちろん西側メディアは歩調を合わせてこれに従った。BBC、CNN、それに「ディ・ヴェルト」は、最も軽率で無責任なものの例である。

西側政府とメディアによって積み上げられたウソの山は、本当の話をわからなくしてしまった。米政府は謀略によって、ウクライナの選挙によって選ばれた政府を転覆させ、アメリカの傀儡をキエフに押し付けたのだった。ワシントン傀儡政権は、以前ロシアの領土でありソ連の首脳がウクライナに併合させた地域の住民に、脅しをかけたたり暴力的な振舞いをしたりし始めた。ウクライナ東・南部のロシア人たちは、キエフのワシントン傀儡政府によってもたらされる脅迫に抵抗した。

ワシントンは絶えず、ウクライナからの分離を投票で決めた地域の人々を、ロシア政府が支持しているといつて非難している。ロシアの支持さえなければ戦争は起こらないのだ、とワシントンは主張する。しかしもちろん、ワシントンは、キエフの傀儡政府に、かつてのロシア地域への爆撃や砲撃をやめろと命令すれば、簡単に暴力はなくなるのである。ロシアが“分離主義者”に戦うなど言えるのなら、ワシントンもキエフに戦うなど言えるだろう。

この事実からの唯一の可能な結論は、ワシントンはヨーロッパを、ロシアとの戦争に巻き込むか、あるいは少なくとも、軍備をもつ疎遠状態に置いて、ヨーロッパのロシアとの政治的・経済的関係を絶たせる決意をしているということである。

欧州首脳たちはこのままでやっつけようとしている。なぜなら欧州諸国は、シャルル・ド・ゴールのフランスを除いて、第二次大戦の終結以来、独立の外交政策を行ったことがないからである。彼らはワシントンの主導に従えば、その報酬はたっぷりもらえる。

ヨーロッパが独立のリーダーシップを生み出せなければ、ロシア大統領プーチンの外交は失敗する運命にある。もし欧州の資本が、ワシントンから独立して決断することができなければ、プーチンの外交が成功する余地はない。

注目すべきは、プーチンがワシントンのウクライナ従僕と会って、事態の解決をしようとした日の翌日、ロシアの侵略という新しいウソが発表されて、プーチンが時間とエネルギーを投入したこの会合からはろくな物が出てこない、と印象付けようとしたことである。

ワシントンの唯一の関心は覇権にある。ワシントンは、ロシアに不快と混乱をもたらそうとして自分自身が作り出した事態を、解決することには関心がない。ウクライナの経済的崩壊によって事態は解決しうると断ったうえで、それ以外には、プーチンが武力で事態を解決しようと長く待つほど、課題はますます困難になると言っておこう。